α-(Al_xGa_{1-x})₂O₃ バッファ層を用いた α-Ga₂O₃ 薄膜の結晶構造評価

Evaluation of Crystal Structures of α-Ga₂O₃ Thin Films on

α-(Al_xGa_{1-x})₂O₃ Buffer Layers

[°]神野 莉衣奈、伊藤 義人、金子健太郎、藤田静雄 (京大院工)

[°]Riena Jinno, Yoshito Ito, Kentaro Kaneko, Shizuo Fujita (Kyoto Univ.)

E-mail: jinno.riena.68a@st.kyoto-u.ac.jp

α-Ga₂O₃はバンドギャップが 5.3 eV の半導体であり^[1]、高耐圧・低損失を実現するパワーデバイ スの新材料として注目されている。α-Ga₂O₃は sapphire と同じ corundum 構造を有し、ミスト CVD 法により sapphire 基板上に配向成長が可能である^[1]。また、Sn ドープにより移動度~20 cm²/V・s、 キャリア密度 10¹⁹ cm⁻³程度を示す^[2]。MOSFET などのデバイス動作をさせるためには、高移動度、 低キャリア密度の実現が必須であるが、sapphire と α-Ga₂O₃には 4.6%の格子ミスマッチがあるた め、sapphire 基板上 α-Ga₂O₃にはらせん転位密度が 10⁷ cm⁻²、貫通転位密度が 7×10¹⁰ cm⁻²程度存在 し^[3]、転位密度を減少させる必要がある。本研究では、転位密度低減を目的に α-(Al_xGa_{1-x})₂O₃ バ ッファ層を導入した α-Ga₂O₃薄膜作製について報告する。

ミスト CVD 法を用いて、sapphire 基板上に α -(Al_xGa_{1-x})₂O₃(x =0.13, 0.64)バッファ層を作製した。 図 1 は(a)sapphire 基板上の α -Ga₂O₃、(b) α -(Al_{0.13}Ga_{0.87})₂O₃バッファ層上 α -Ga₂O₃の非対称面(1014) における XRD Φ スキャンプロファイルである。 α -(Al_{0.13}Ga_{0.87})₂O₃バッファ層を導入することによ り回転ドメイン体積が減少していることが確認された。 α -(Al_{0.64}Ga_{0.36})₂O₃においても同様に回転ド メイン体積の減少が確認され、 α -(Al_xGa_{1-x})₂O₃バッファ層が α -Ga₂O₃薄膜の回転ドメイン体積減少 に効果的であることが確認された。また、sapphire と α -Ga₂O₃の格子ミスマッチは 4.6% と大きい ことから、Al 組成一定のバッファ層ではなく、Al 組成比を変調させたバッファ層を作製すること により、 α -Ga₂O₃の転位密度減少が期待できる。当日は α -(Al_xGa_{1-x})₂O₃変調バッファ層についても 発表する予定である。

- [1] D.Shinohara et.al., JJAP 47 (2008) 7311
- [2] K. Akaiwa: 第 62 回応物春季学術講演会予稿集 16-066
- [3] K.Kaneko, et.al., JJAP 51 (2012) 020201



